

第 2 回
学生生活実態調査



1996年

日本赤十字看護大学

目次

「第2回学生生活実態調査報告書刊行にあたって」	2
第1章 調査の対象と方法	4
1節 調査の対象	
2節 調査の方法	
第2章 住居について	6
1節 住居の種類	
2節 下宿・アパート・マンションの住居状況	
3節 住居の満足度	
第3章 寮生活について	10
1節 寮生活の満足度	
2節 食堂について	
3節 外泊について	
第4章 経済生活について	14
1節 月平均の総支出額と費目別平均支出額	
2節 家族の支援と奨学金	
3節 ローン及びクレジットのトラブル	
第5章 アルバイトについて	22
1節 アルバイトの実態	
2節 アルバイトの目的	
3節 アルバイトの職種と賃金	
第6章 健康状態について	28
1節 健康状態	
2節 退寮後の健康上の変化	
3節 不安や悩みの解決法	
第7章 生活時間について	32
1節 睡眠時間	
2節 通学時間	
3節 学習時間	
4節 自由時間とサークル活動時間	
第8章 課外活動について	38
1節 加入している学内・外のクラブ及び同好会	
2節 クラブ等の参加目的など	
3節 夏期休暇中の主な行動	
4節 課外教育と学生の希望	
第9章 卒業後の進路について	50
1節 卒業後の進路	
2節 就職先について	
付録 <調査票>	52

第2回学生生活実態調査報告書刊行にあたって

日本赤十字看護大学は昭和61(1986)年の開学以来、学生が良い学園生活を送ることが出来るように、また課外活動などを通じて、より豊かな人間形成を図ることができるように、学生の自主性を尊重しながら、彼らの生活全般につき、公私にわたって細かな配慮を持続してまいりました。創立直後の本学において、学生たちが実際にどのような生活を送っているかを知るために、開学から5年目に当たる平成2(1990)年度に、第1回学生生活実態調査が実施され、翌年度にその報告書が刊行されております。

以来順調に5ヶ年の歳月が経過いたしました。その間、平成5(1993)年度には大学院看護学研究科看護学専攻修士課程が、また平成7(1995)年度には同博士課程が新たに設置され、校舎の増改築が行われています。大学の規模が急速に拡大するにつれ、大学院学生の姿も日常的に学内で見られるようになりました。学部学生の意識にも大きな変化が生まれるのは当然であります。また学部のカリキュラムが改定され、グラウンドの整備なども行われましたが、学生生活に最も大きな影響を及ぼしたのは、何と云っても平成7(1995)年度から実施された学部1・2年生の全寮制の廃止でありましょう。学生寮(養心寮)の面積が縮小され、これまで寮から登学していた1・2年生の約半数が、学外から電車やバスで通学するようになりました。ある意味で、それだけ開放的になったとも言えるでしょう。

近年の全国的な規模における看護大学の増設(1県1看護構想)も、本学入学者の分布に著しく変化を引き起こしました。遠方からの入学者が減少して、首都圏およびその周辺からの学生の比率が増えております。新しい時代に即応する大学自体の改革もあちこちで始まり、本学もその例外ではありません。日本の政治・社会・経済は、いわゆるバブル景気の崩壊とともに大きく変動し、海外情勢の推移と相まって流路を変えつつあり、私たちはその影響下に置かれています。

大学で最も重要な、中心的な存在は、言うまでもなく学生であります。学生がいなければ、そこは単なる研究所であり、もはや大学ではあり得ません。その意味で、現在の学生がどのような生活を送っているかは、大学人にとって最大の関心事であります。前回の調査から5年を経た今日、本学の学生生活の実態がどのように変わったかを知るために、教授会の了承のもとに、昨年秋、この第2回目の調査を実施いたしました。これによって浮

き彫りにされる学生生活の実態が、今後の本学の施策に大いに生かされることを期待いたします。今回の調査結果は、学生の現状を後世に伝える一つの良い資料ともなり得るでしょう。

この実態調査に関わる平成6～7(1994/95)年度学生委員会委員の渡辺晃一教授・島村忠義助教授・原礼子助教授・横田素美講師・安藤広子講師の各位、学生課の藪紀子氏・洪沢毅氏、ならびに快く調査に協力して下さった学生の皆さんに厚くお礼申し上げます。

平成8(1996)年3月

学生部長・学生委員会委員長
森 本 岩 太 郎

第1章 調査の対象と方法

1節 調査の対象

本調査の対象は、日本赤十字看護大学の学部学生1～4年生237名を対象に全数調査を実施したものである。

学年別に調査対象者の配布数、回収数、回収率を見ると、1年生は60名に配布し、53名の回収数を得た。回収率は88.3%であった。2年生は60名に配布し、60名の回収数を得た。回収率は100%であった。3年生は66名に配布し、55名の回収数を得た。回収率は83.3%であった。4年生は51名に配布し、35名の回収数を得た。回収率は68.6%であった。日本赤十字看護大学生1年生から4年生の総数237名に対して、回収数が203名、回収率は85.7%であった。1990年に実施された実態調査の回収率(78.9%)と比較すると、今回の実態調査の方が回収率は、高くなっている(表1-1)。なお、全寮制が1995年に廃止され、希望入寮制に変わり、調査実施時期の在寮数は、1年生が27名、2年生が34名であった。

2節 調査の方法

本調査は、学生委員会を中心に、1990年に実施された学生の生活実態調査における調査票を若干修正し、調査を実施した。調査票の主な構成内容は、以下のとおりである。

1. 住居に関すること
2. 寮生活について
3. 経済生活について
4. アルバイトについて
5. 健康状態について
6. 生活時間について
7. 課外活動について
8. 卒業後の進路について

調査の実施と回収方法は、学生委員会の教員が担当科目の終了後、調査票を配布し、回収する集合調査による方法をとった。4年生の回収率が低い理由の一つとして、4年生全員が揃う科目が少ないことが挙げられる。

調査の集計と解析は統計ソフト「SL-MICRO」を使用し、情報処理室で処理した。

この調査は、1995年11月に実施した。

なお、この表で使われている数字は、左側は人数、右側の()内は%で表示している。

表 1 - 1. 学年別から見た調査対象者の配布数, 回収数, 回収率

	配布月日	配布数	回収数	回収率
1 年生	1995年11月	60人	53人	88.3%
2 年生	〃	60	60	100.0
3 年生	〃	66	55	83.3
4 年生	〃	51	35	68.6
総数	〃	237	203	85.7
(1990年)		(232)	(183)	(78.9)

第2章 住居について

本学における住居の斡旋については、1年生を対象に入学時に学生寮への入寮希望者を募っている。大学としては、アパートやマンションなどの積極的な斡旋は行っていないが、不動産業者や学生からの紹介物件が、学生会用掲示板で紹介がある。

1節 住居の種類

学生の住居をみると、「自宅」からの通学生が37.9%、「下宿・アパートやマンション」からが32.0%、「学生寮」からが30.0%であった。「自宅」からの通学生がやや多く、「下宿・アパート・マンション」や「学生寮」からの通学生とほぼ同じ割合であった(表2-1)。

また、学年別に学生の住居をみると、1年生は「学生寮」が50.9%、「自宅」が41.5%、「下宿・アパート・マンション」が7.5%であった。2年生は「学生寮」が56.7%、「自宅」が31.7%、「下宿・アパート・マンション」が11.7%であった。3年生は「下宿・アパート・マンション」が58.2%、「自宅」が41.8%であった。4年生は「下宿・アパート・マンション」が62.9%、「自宅」が37.1%であった。

以上のことから、1・2年生の大多数は「自宅」と「学生寮」からの通学であり、「下宿・アパート・マンション」からの通学生は少ない。一方、3・4年生は「自宅」と「下宿・アパート・マンション」からの通学生が多くなっている。

1990年の調査では、3・4年生の自宅からの通学生が25%程度であったのが、今回の調査では40%程度となっていることから、自宅からの通学生が大幅に増えている。これを学生の出身地別との関係からみると、自宅からの通学が可能な東京、埼玉、神奈川、千葉の出身者が、1990年度の入学生は40%であり、1995年度の入学生は55.0%であった。これは、近年の大学における看護教育施設数の急増加に伴う、学生の出身地の推移とも関連が深いものと思われる。

2 節 下宿・アパート・マンションの住居状況

学生の生活空間としての住居の間取りは、「6畳1間」が50.0%であり、その次に多いのは「2K～2DK」の16.7%であった(表2-2)。住居設備としての風呂、トイレ、台所については、「個人」専用が90%前後と大多数を占めていた(表2-3)。一方、風呂がないのは3年生の4名であり、台所がないのも3年生の1名であった。また、同居人については、「いない」が77.3%であった(表2-4)。

以上のことから、学生の住居状況をみると、家屋の間取りは6畳1間や2K～2DKで、個人専用のお風呂・トイレ・台所がついている場に、一人暮らしをしている者が大部分である。

住居の間取りについては1990年の調査と変わらないが、個人用の風呂・トイレが設置されている住居は70%から90%へ、個人用の台所が設置されている住居は80%から90%へと設備の向上がみられる。

また、大学寮への入寮希望については、「入りたくない」と答えた学生が65.2%であり、半数以上の者が希望していない(表2-5)。特に、全寮制の最後である寮生活を体験した3年生に入寮を希望しない者が多かった。

3 節 住居の満足度

現在の住居に対する満足度については、「満足している」者が55.2%であり、「どちらともいえない」者が28.1%、「満足していない」者が16.7%であった(表2-6)。このことから、学生の半数は現在の住居に満足をしているといえるが、前回の調査時よりはやや満足度が低下し、「どちらともいえない」と答えている者が増えている。

また、住居に対する満足度と住居空間、住居設備、同居人の有無との関連性はなかった。なお、住居費についての調査は行っていないので、その関連性については今後の課題とされる。

表 2-1. 住居の種類

	自宅	下宿・アパート マンション	学生寮	小計
1年生	22(41.5)	4(7.5)	27(50.9)	53(100.0)
2年生	19(31.7)	7(11.1)	34(56.7)	60(100.0)
3年生	23(41.8)	32(58.2)	0(0.0)	55(100.0)
4年生	13(37.1)	22(62.9)	0(0.0)	35(100.0)
総数	77(37.9)	65(32.0)	61(30.0)	203(100.0)

表 2-2. 住居の間取り

	4.5畳一間	6畳一間	2K~2DK	3DK以上	その他	小計
1年生	0(0.0)	1(25.0)	0(0.0)	2(50.0)	1(25.0)	4(100.0)
2年生	0(0.0)	6(75.0)	1(12.5)	0(0.0)	1(12.5)	8(100.0)
3年生	2(6.3)	18(56.3)	6(18.8)	0(0.0)	6(18.7)	32(100.0)
4年生	0(0.0)	8(36.4)	4(18.2)	0(0.0)	10(45.5)	22(100.0)
総数	2(3.0)	33(50.0)	11(16.7)	2(3.0)	18(27.3)	66(100.0)

無回答を除いて記載している。

表 2-3. 住居の設備

	風呂			トイレ		台所			小計
	<個人用>	<共同>	<なし>	<個人用>	<共同>	<個人用>	<共同>	<なし>	
1年生	4(100.0)	0(0.0)	0(0.0)	4(100.0)	0(0.0)	4(100.0)	0(0.0)	0(0.0)	4(100.0)
2年生	7(87.5)	1(12.5)	0(0.0)	7(87.5)	1(12.5)	7(87.5)	1(12.5)	0(0.0)	8(100.0)
3年生	26(87.3)	2(6.3)	4(12.5)	27(84.4)	5(15.6)	29(90.6)	2(6.7)	1(3.1)	32(100.0)
4年生	21(95.5)	1(4.5)	0(0.0)	21(95.5)	1(4.5)	22(100.0)	0(0.0)	0(0.0)	22(100.0)
総数	58(87.9)	4(6.1)	4(6.1)	59(89.4)	7(10.6)	62(93.9)	3(4.5)	1(1.5)	66(100.0)

無回答を除いて記載している。

表 2 - 4. 同居人

	いる	いない	小計
1 年生	2 (50.0)	2 (50.0)	4 (100.0)
2 年生	1 (12.5)	7 (87.5)	8 (100.0)
3 年生	7 (21.9)	25 (78.1)	32 (100.0)
4 年生	5 (22.7)	17 (77.3)	22 (100.0)
総数	15 (22.7)	51 (77.3)	66 (100.0)

無回答を除いて記載している。

表 2 - 5. 大学寮への入寮希望

	入りたい	入らない	小計
1 年生	0 (0.0)	4 (100.0)	4 (100.0)
2 年生	0 (0.0)	8 (100.0)	8 (100.0)
3 年生	12 (37.5)	20 (62.5)	32 (100.0)
4 年生	11 (50.0)	11 (50.0)	22 (100.0)
総数	23 (34.8)	43 (65.2)	66 (100.0)

無回答を除いて記載している。

表 2 - 6. 現在の住居について

	満足	不満足	どちらとも いえない	小計
1 年生	22 (41.5)	10 (18.9)	21 (39.6)	53 (100.0)
2 年生	30 (50.0)	14 (23.3)	16 (26.7)	60 (100.0)
3 年生	40 (72.7)	4 (7.3)	11 (20.0)	55 (100.0)
4 年生	20 (57.1)	6 (17.1)	9 (25.7)	35 (100.0)
総数	112 (55.2)	34 (16.7)	57 (28.1)	203 (100.0)

第3章 寮生活について

本学の学生寮は「養心寮」という名称であり、入寮期間は原則として1年次の1年間である。

学生寮は鉄筋コンクリート10階建てで、1階には食堂・浴室・集会室などが、2階には事務室(受け付け)・寮監室などが、4～8階には学生のための居室・補食室・洗濯室・洗面所・トイレなどがある。そして、養心寮の2～3階には日本赤十字社医療センターの研修医が、9～10階には日本赤十字社助産婦学校生が入っている。

居室は、約14㎡の洋室で、2段ベット・スチールロッカー・机・椅子を備えていて、それを2人で使用することになっている。

また、大学学生寮には、専任の舎監が1名いる。

1節 寮生活の満足度

学生寮の生活体験者は、3年生と4年生が全寮制であった1年次と2年次に、2年生と1年生は希望者のみであったため一部の学生である。

寮生活体験者からの寮生活に対する満足度については、「どちらともいえない」と答えた者が40.8%であり、「満足」が39.4%、「不満足」が19.7%であった(表3-1)。学年別にみると、「満足」の答えが多かったのが3年生であった。しかし、前述したように「入寮を希望しない」者も3年生に多い。4年生になると、実習期間が長いことから通学距離が短縮される寮生活の良さが感じられてくるのではないかと推測される。

寮生活についての感想をみると、寮生活で良いと思うことは、「通学距離の短縮」と答えた者が97.9%で、「友人との深い付き合い」・「経費が安い」が76.6%、「親元からの独立」は40.4%、「学習時間の増加」は3.0%であった(表3-2)。このことから、寮生活のメリットとしては、学生寮が大学に隣接していることから「通学距離の短縮」を大多数の者が捉えているが、通学時間の短縮によって得られる時間を学習時間の増加と関連させては考えていない。

学習時間との関連については、1990年の調査の21.4%から3.0%と大きく減少している。その一方で、寮生活は「親元からの独立」と答えた者が40.4%であり、1990年の調査の9.4%から増加している。

反対に、寮生活で困ったことについては、「寮の規則」と答えた者が67.1%、「寮の設備」が56.4%、「友人関係」が41.4%、「室内設備」が40.7%、「食事」が28.6%であった(表3-3)。このことから、約半数の寮生が寮の規則や設備に何らかの不便を感じている。食事については、大学の食堂が階下であり、さらに補食室が各階にあるためか、困難さを感じている者は少なかった。また、寮生活により親密な友人関係がもてる一方で、人間関係の困難さも感じている。

2 節 食堂について

食堂については、「メニューが少ない」と答えた寮生が80.3%と大多数であり、「安い」が20.4%、「栄養のバランスがとれない」が12.0%であった(表3-4)。1990年の調査と比較して、値段に対する変化はあまりみられないが、メニューに対する不満は2倍となっている。これは、物資の豊かな、自由な気風の社会の中で成長してきた現代の若者の気持ちを反映しているものと思われる。

3 節 外泊について

外泊については、「月に1～2回」と答えた寮生が40.1%で、「週に1回」が39.4%であり、大多数の者が月に1回以上の外泊をしていた。(表3-5)。

また、「外泊をしない」学生は、1990年の調査時の半数であった。これは、1990年の調査と比較して、学生の出身県が東京に近い関東甲信越地方が53%から68%と増加していることや、全寮制が廃止によって、自宅への帰宅や知人・友人の住居を訪問する機会が多くなったためであろうと思われる。

表3-1. 寮生活の満足度

	満足	不満足	どちらとも いえない	小計
1年生	10(37.0)	4(14.8)	13(48.1)	27(100.0)
2年生	17(32.7)	13(25.0)	22(42.3)	52(100.0)
3年生	20(51.3)	5(12.8)	14(35.9)	39(100.0)
4年生	9(37.5)	6(25.0)	9(37.5)	24(100.0)
総数	56(39.4)	28(19.7)	58(40.8)	142(100.0)

無回答を除いて記載している。

表3-2. 寮生活で良いと思われたこと（複数回答）

	友人関係	親元から の独立	通学距離 の短縮	学習時間 の増加	経費が安い	その他
1年生	22(81.5)	13(48.1)	27(100.0)	3(11.1)	26(96.3)	1(3.7)
2年生	33(64.7)	16(31.4)	50(98.0)	9(17.6)	42(82.4)	2(3.9)
3年生	34(87.2)	15(38.5)	39(100.0)	7(17.9)	24(61.5)	0(0.0)
4年生	19(79.2)	13(54.2)	22(91.7)	1(4.2)	16(66.7)	0(0.0)
総数	108(76.6)	57(40.4)	138(97.9)	2(3.0)	108(76.6)	3(2.1)

*表は複数回答による項目のなかで、「はい」と回答した人についてのみ集計し、掲載した。
無回答を除いて記載している。

表3-3. 寮生活で困ったこと（複数回答）

	友人関係	寮の規則	室内設備	寮の設備	食事	その他
1年生	16(59.3)	19(70.4)	6(22.2)	15(55.6)	4(14.8)	1(3.7)
2年生	22(42.3)	34(65.4)	28(53.8)	31(59.6)	18(34.6)	3(5.8)
3年生	12(31.6)	25(65.8)	13(34.2)	22(57.9)	10(26.3)	2(5.3)
4年生	8(34.8)	16(69.6)	10(43.5)	11(47.8)	8(34.8)	1(4.3)
総数	58(41.4)	94(67.1)	57(40.7)	79(56.4)	40(28.6)	7(5.0)

*表は複数回答による項目のなかで、「はい」と回答した人についてのみ集計し、掲載した。
無回答を除いて記載している。

表3-4. 食堂について (複数回答)

	安い	メニューが 少ない	栄養のバランス がとれない	その他
1年生	5(18.5)	20(74.1)	6(22.2)	6(22.2)
2年生	10(19.2)	41(78.8)	1(1.9)	8(15.4)
3年生	8(20.5)	35(89.7)	6(15.4)	5(12.8)
4年生	6(25.0)	18(75.0)	4(16.7)	2(8.3)
総数	29(20.4)	114(80.3)	17(12.0)	21(14.8)

*表は複数回答による項目のなかで、「はい」と回答した人についてのみ集計し、掲載した。
無回答を除いて記載している。

表3-5. 外泊について

	1~2回/月	1回/週	その他	外泊無し	小計
1年生	15(55.6)	6(22.2)	3(11.1)	3(11.1)	27(100.0)
2年生	20(38.5)	25(48.1)	5(9.6)	2(3.8)	52(100.0)
3年生	14(35.9)	13(33.3)	7(17.9)	5(12.8)	39(100.0)
4年生	8(33.3)	12(50.0)	2(8.3)	2(8.3)	24(100.0)
総数	57(40.1)	56(39.4)	17(12.0)	12(8.5)	142(100.0)

無回答を除いて記載している。

第4章 経済生活について

1節 月平均の総支出額と費目別平均支出額

(1) 月平均の総支出額

学費以外の月平均の総支出額は、全体として「3～5万円」が34.8%で最も多い(表4-1)。前回の調査(1990年)では「5～7万円」が26.7%で最も多く、今回の調査結果と比較すると、月平均の総支出額の少ない者の数が増えていることが分かる。この理由を考察すると、1994年に全寮制が廃止され、自宅からの通学生が前回の調査では13.1%であったが今回の調査では37.9%と増加したことが背景にある(表2-1)。

また、学年別に見ると、「10万円以下」の者が1年生は98.1%、2年生が90.8%を占めているのに対して、3年生は「3～5万円」の学生が最も多いのは全体の傾向と一致している半面、「11万円以上」の学生も36.4%と増加し、4年生以上になると、「11万円以上」の学生が55.9%と増加していることが分かる。平成6年度「学生生活調査報告書」(文部省)『大学と学生』(第369号)による全国私立大学の平均生活費67,492円と比較すると、本学の学生はやや少ない傾向にある(表4-1)。

(2) 月平均の食費(自宅からの通学者は外食費)

月平均の食費の支出額を見ると、「1～2万円」の学生が38.8%と最も多く、次いで「3万円」が30.3%となっている。

学年別に見ると、1年生は「1万円以下」が30.8%、「1～2万円」が42.3%となり、合計すると70%を占めていることが明らかとなっている。2年生は「1万円以下」が26.7%、「1～2万円」が43.3%となり、合計すると70%を占めている。3年生は「1～2万円」が40.7%、「3万円」が35.2%となり、合計75.9%であった。4年生は「1～2万円」が22.9%、「3万円」が37.1%となり、合計60%であった。前回の調査(1990年)と比較すると、今回の調査の方が食費の平均額は減少しており、これは全寮制の廃止が影響していると思われる。前述した全国私立大学の学生の平均食費額は19,573円で、本学の学生とほぼ同じ結果が認められている(表4-2)。

表 4 - 1. 月平均の総支出額

	3万円以下	3～5万円	6～7万円	8～10万円	11～12万円	13～15万円	16～20万円	小計
1年生	8(15.1)	22(41.5)	15(28.5)	7(13.2)	0(0.0)	1(1.9)	0(0.0)	53(100.0)
2年生	5(8.5)	26(44.1)	16(27.1)	6(10.2)	1(1.7)	4(6.8)	1(1.7)	59(100.0)
3年生	10(18.2)	11(20.0)	5(9.1)	9(16.4)	9(16.4)	7(12.7)	4(7.3)	55(100.0)
4年生	2(5.9)	11(32.4)	0(0.0)	2(5.9)	3(8.8)	11(32.4)	5(14.7)	34(100.0)
総数	25(12.4)	70(34.8)	36(17.9)	24(11.9)	13(6.5)	23(11.4)	10(5.0)	201(100.0)

無回答を除いて記載している。

表 4 - 2. 月平均の食費

	1万円以下	1～2万円	3万円	4万円	5万円以上	小計
1年生	16(30.8)	22(42.3)	12(23.1)	2(3.8)	0(0.0)	52(100.0)
2年生	16(26.7)	26(43.3)	17(28.3)	1(1.7)	0(0.0)	60(100.0)
3年生	11(20.4)	22(40.7)	19(35.2)	2(3.7)	0(0.0)	54(100.0)
4年生	7(20.0)	8(22.9)	13(37.1)	6(17.1)	1(2.9)	35(100.0)
総数	50(24.9)	78(38.8)	61(30.3)	11(5.5)	1(0.5)	201(100.0)

無回答を除いて記載している。

(3) 月平均の住居費（家賃、光熱費を含む）＜自宅通学者、学生寮居住者を除く＞

アパートやマンション等に居住している学生の住居費を見ると、今回対象となった学生は1年生が5人、2年生が7人であった。3年生は31人、4年生は22人であり、1～2年生と比較すると、アパートやマンション等の居住者が急増していることが分かる。

この調査の結果、全体的に、「8～10万円」の住居費を支払っている学生の割合は56.9%で、最も多く認められた。前回の調査では「7～10万円」が46.7%で最も多く、前回と比較すると、わずかに住居費が上昇していることが分かる。全国の私立大学の学生の住居費の平均45,641円と比較し、高いことが認められる。この理由の第一は、大学が都心部にあり、近辺の家賃が高水準にあることである。第二は、女性として品位のある住まいを求める場合、やはり割高になることはやむをえないものと思われる(表4-3)。

(4) 月平均の勉学費

勉学費の内容としては教科書、コピー費、文具費等が含まれるが、「4000円以下」が50.2%、「5000円～1万円」が41.3%であった。前回の調査では「4000～6000円」が30.3%で最も多く、次いで「2000～4000円」が23.1%であった。今回の調査結果と比較すると、勉学費は若干の増加を示している(表4-4)。

表 4 - 3. 月平均の住居費

	3万円以下	3～5万円	6～7万円	8～10万円	11万円以上	小計
1年生	2(40.0)	1(20.0)	1(20.0)	0(0.0)	1(20.0)	5(100.0)
2年生	0(0.0)	0(0.0)	1(14.3)	6(85.7)	0(0.0)	7(100.0)
3年生	2(6.5)	6(19.4)	6(19.4)	16(51.6)	1(3.2)	31(100.0)
4年生	1(4.5)	0(0.0)	4(18.2)	15(68.2)	2(9.1)	22(100.0)
総数	5(7.7)	7(10.8)	12(18.5)	37(56.9)	4(6.2)	65(100.0)

自宅通学者、大学寮生を除いて記載している。

表 4 - 4. 月平均の勉学費

	0.4万円以下	0.5～1万円	1.1～1.5万円	1.6～2万円	2.1万円以上	小計
1年生	22(42.3)	24(46.2)	2(3.8)	3(5.8)	1(1.9)	52(100.0)
2年生	24(40.7)	29(49.2)	5(8.5)	1(1.7)	0(0.0)	59(100.0)
3年生	36(65.5)	16(29.1)	2(3.6)	1(1.8)	0(0.0)	55(100.0)
4年生	19(54.3)	14(40.0)	1(2.9)	0(0.0)	1(2.9)	35(100.0)
総数	101(50.2)	83(41.3)	10(5.0)	5(2.5)	2(1.0)	201(100.0)

無回答を除いて記載している。

(5) 月平均の通学費（大学生寮の学生は除く）

学生の月平均の通学費は「5～9千円」が35.1%と最も多い。次に多いのが「1～4千円」の学生で26.4%あった。前回の調査では「4～8千円未満」が39.5%で最も多く、平均して通学費の増加が認められる。さらに、今回の調査で顕著なことは、通学費として「1万円以上」支出している学生は26.4%いたことである。これは恐らく、片道2時間近くを通学時間にかけている遠距離通学者が相当数いることを示している。全寮制が廃止された現在、大学生生活を始めたばかりの1年生(2年生の一部)が寮かアパート、あるいは自宅からの通学について選択を迫られた時、自宅からの遠距離通学を選択することは時間の無駄ばかりでなく、肉体的疲労が蓄積され、学業を継続する上で、弊害が予測される。因みに、日本私立大学の学生の通学費の平均は6,691円である(表4-5)。

2節 家族の支援と奨学金

(1) 月平均の家族からの援助額（自宅通学者は除く）

月平均の家族からの援助額は、「5～6万円」が29.3%で最も多い。これは前回の調査結果と同じ傾向を示していた。学年別では、1年生が58.1%と最も多い。又、「13万円以上」では4年生が59.1%と多く認められている。全体的に、3～4年生になると、家族からの援助額が増加している(表4-6)。

表4-5. 月平均の通学費

	0円	1～4千円	5～9千円	1万円以上	小計
1年生	4(14.8)	3(11.1)	7(25.9)	13(48.1)	27(100.0)
2年生	1(3.0)	10(30.3)	13(39.4)	9(27.3)	33(100.0)
3年生	7(13.0)	19(35.2)	17(31.5)	11(20.4)	54(100.0)
4年生	6(17.6)	7(20.6)	15(44.1)	6(17.6)	34(100.0)
総数	18(12.2)	39(26.4)	52(35.1)	39(26.4)	148(100.0)

大学寮生を除いて記載している。

表4-6. 月平均の家族からの援助額

	2万円以下	2～4万円	5～6万円	7～9万円	10～12万円	13万円以上	小計
1年生	1(3.2)	4(12.9)	18(58.1)	3(9.7)	4(12.9)	1(3.2)	31(100.0)
2年生	4(10.5)	9(23.7)	14(36.8)	8(21.1)	2(5.3)	1(2.6)	38(100.0)
3年生	2(6.3)	1(3.1)	3(9.4)	8(25.0)	7(21.9)	11(34.4)	32(100.0)
4年生	0(0.0)	0(0.0)	1(4.5)	3(13.6)	5(22.7)	13(59.1)	22(100.0)
総数	7(5.7)	14(11.4)	36(29.3)	22(17.9)	18(14.6)	26(21.1)	123(100.0)

自宅通学生を除いて記載している。

(2) 現在受けている奨学金の種類

学生が受けている奨学金の種類は全体として、「日赤支部社費」が36.3%、「日赤医療センターの貸費」が31.8%となっている。両者の奨学金を合計して68.1%となっている。この傾向は前回の調査結果と類似している。「日本育英会」の奨学金を受けている者が前回の調査では8.5%から今回の調査では5.5%に減少している。「受けてない」学生は23.9%であった。前回調査結果と比較すると、若干減少している。学年別から「日赤支部社費」を見ると、4年生が51.4%で最も多い。「日赤医療センターの貸費」は2年生が54.2%で最も多い(表4-7)。

3節 ローン及び、クレジットのトラブル

現在の日本では、カード使用によるお金の使いすぎの問題、すなわち「カード破産」が一つの社会問題となっており、この背景にはカード社会の仕組みが使用する側によく理解されていないことが挙げられる。一つは個人信用情報の整備の問題である。第二は米国では18歳になると、カードが持てる。高校生になるとカード教育が行われ、カードホルダーとしての責任と自覚を教育される。今回の調査では2名の学生がトラブルに巻き込まれている。これは前回の調査と同じである(表4-8)。

表4-7. 現在受けている奨学金の種類

	日赤医療 センター 貸費	日赤支部 社費	日本育英会	その他	受けてない	小計
1年生	2(3.8)	18(34.0)	3(5.7)	3(5.7)	27(50.9)	53(100.0)
2年生	32(54.2)	18(30.5)	3(5.1)	0(0.0)	6(10.2)	59(100.0)
3年生	18(33.3)	19(35.2)	4(7.4)	1(1.9)	12(22.2)	54(100.0)
4年生	12(34.3)	18(51.4)	1(2.9)	1(2.9)	3(8.6)	35(100.0)
総数	64(31.8)	73(36.3)	11(5.5)	5(2.5)	48(23.9)	201(100.0)

無回答を除いて記載している。

表4-8. ローン及び、クレジットのトラブル

	ある	ない	小計
1年生	1(1.9)	52(98.1)	53(100.0)
2年生	0(0.0)	59(100.0)	59(100.0)
3年生	0(0.0)	53(100.0)	53(100.0)
4年生	1(2.9)	34(97.1)	35(100.0)
総数	2(1.0)	198(99.0)	200(100.0)

無回答を除いて記載している。

第5章 アルバイトについて

1節 アルバイトの実態

(1) アルバイトの実施頻度

授業期間中の1ヶ月の平均アルバイト日数は、5～8日が30.6%と最も多く、次いで9～12日が27.5%、1～4日が25.9%であった(表5-1)。学年別に最も多く挙げられた日数を見ると、1年生は9～12日、2・3年生は5～8日、4年生は5～8日と9～12日であった。比較的、学業に余裕がある1年生の時期は、アルバイトにかける日数も多くなると思われる。特に、月平均13日以上と答えた者を見ると、1年生21.7%、2年生21.7%、3年生11.3%、4年生5.8%と学年が進むに従い減少しており、実習や卒業研究に追われている4年生では1・2年生の約4分の1となっている。

1990年の調査を見ると、1ヶ月の平均アルバイト日数は、全体では9～12日が36.3%と最も多く、1年生・2年生・4年生では9～12日、3年生では5～8日が最も多かった。今回の調査における平均アルバイト日数の方が少ないのは、バブル経済後、アルバイトの需要が減少していることも影響していると思われる。

1ヶ月の平均アルバイト日数と1ヶ月の家族からの平均援助額との関係を見ると、相関関係はないものの、援助額が13万円以上の学生では、アルバイト日数1～8日が76.0%に対し、援助額が2～4万円の学生では、13日以上が42.9%、9～12日が28.6%となっている(表5-2)。家族からの援助額が比較的少ない学生は、アルバイトを多く行うことによって必要経費を補っている面もあるのではないかと思われる。

アルバイトの実施期間は、「長期休暇中及び授業期間中」が47.3%と最も多く、次いで「授業期間中恒常的に」が42.4%であった。「長期休暇中のみ」2.0%、「授業期間臨時的に」6.9%と限られた期間のみアルバイトしている学生は少なく、大半の学生が大学生活の中にアルバイトを定着させている状況が伺われる。

表5-1. 授業期間中の1ヶ月平均アルバイト日数

	1～4日	5～8日	9～12日	13日以上	小計
1年生	11(23.9)	12(26.1)	13(28.3)	10(21.7)	46(100.0)
2年生	9(15.0)	20(33.3)	18(30.0)	13(21.7)	60(100.0)
3年生	20(37.7)	16(30.2)	11(20.8)	6(11.3)	53(100.0)
4年生	10(29.4)	11(32.4)	11(32.4)	2(5.8)	34(100.0)
総数	50(25.9)	59(30.6)	53(27.5)	31(16.0)	193(100.0)

表5-2. 授業期間中の1日平均アルバイト日数と家族からの平均援助額との関係

	1～4日	5～8日	9～12日	13日以上	小計
2万円以下	1(14.3)	2(28.6)	1(14.3)	3(42.9)	7(100.0)
2～4万円	2(14.3)	2(14.3)	4(28.6)	6(42.9)	14(100.0)
5～6万円	8(22.9)	10(28.6)	9(25.7)	8(22.9)	35(100.0)
7～9万円	6(28.6)	7(33.3)	4(19.0)	4(19.0)	21(100.0)
10～12万円	6(40.0)	4(26.7)	3(20.0)	2(13.3)	15(100.0)
13万円以上	9(36.0)	10(40.0)	5(20.0)	1(4.0)	25(100.0)
総数	33(27.7)	35(29.4)	26(21.8)	25(21.0)	119(100.0)

(2) アルバイトの実施時間

授業期間中の1日平均アルバイト時間は、4～5時間が64.3%を占め、2～3時間が22.8%、6時間以上9.8%を占めた(表5-3)。学年別においても、どの学年も4～5時間が半数以上を占め、次いで2～3時間が20%前後から30%を占めた。6時間以上と答えた者は1年生13.1%、2年生1.7%、3年生11.5%、4年生17.1%と、2年生を除き各学年1～2割であった。

1990年の調査においても、4～5時間が43.6%と最も多かった。しかし、5～8時間が20.4%と次いで多く、1ヶ月のアルバイト日数と同様、1日のアルバイト時間も今回の調査結果の方が少ない傾向にあった。

2節 アルバイトの目的

アルバイトによる収入の使用目的は、レジャー費が53.8%と最も多く、次いで生活費23.1%、クラブ活動費5.5%、高額商品の購入のため5.0%、学費および勉学費4.0%であった(表5-4)。学年別に見ると、レジャー費に関しては、1年生49.0%、2年生45.7%、3年生60.0%、4年生62.9%であり、1・2年生に比べ3・4年生になるとアルバイトによる収入をレジャー費に充てる傾向が増えてくる。これは、学年が進むにつれ、大学生活や東京での生活にも慣れ、交友関係も広がり、レジャー費がより多く必要になってくるためと思われる。

日本育英会が実施した平成6年度奨学生生活状況報告を見ると、アルバイトに従事した理由の第1位は生活費のため(46%)、次いで教養・娯楽・レジャー費等のため(38%)、学費のため(10%)であり、本大学の結果と類似している。

1990年の調査においても、旅行・レジャー費50.8%、生活費24.0%、高額商品の購入6.7%、クラブ活動費5.0%の順であり、今回の調査と同様の結果であった。

表5-3. 授業期間中の1日平均アルバイト時間

	1時間以内	2～3時間	4～5時間	6時間以上	小計
1年生	0(0.0)	14(30.4)	26(56.5)	6(13.1)	46(100.0)
2年生	5(8.3)	12(20.0)	42(70.0)	1(1.7)	60(100.0)
3年生	1(1.9)	12(23.1)	33(63.5)	6(11.5)	52(100.0)
4年生	0(0.0)	6(17.1)	23(65.7)	6(17.1)	35(100.0)
総数	6(3.1)	44(22.8)	124(64.3)	19(9.8)	193(100.0)

表5-4. アルバイト目的

	学費 勉学費	生活費	クラブ 活動費	レジャー費	高額商品 購入	その他	小計
1年生	3(5.9)	11(21.6)	3(5.9)	25(49.0)	4(7.8)	5(9.8)	51(100.0)
2年生	3(5.1)	15(25.4)	7(11.9)	27(45.7)	3(5.1)	4(6.8)	59(100.0)
3年生	1(1.8)	13(23.6)	1(1.8)	33(60.0)	3(5.5)	4(7.3)	55(100.0)
4年生	1(2.9)	7(20.0)	0(0.0)	22(62.9)	0(0.0)	5(14.3)	35(100.0)
総数	8(4.0)	46(23.1)	11(5.5)	107(53.8)	10(5.0)	18(9.0)	199(100.0)

3 節 アルバイトの職種と賃金

(1) アルバイトの職種

授業期間中に行うアルバイトの職種では、接客業が74.0%と最も多く、次いで販売業21.9%、事務的職種8.7%、家庭教師6.2%の順であった。学年別においても同様の結果であった。

長期休暇中に行うアルバイトの職種でも、接客業が65.2%と最も多く、次いで販売業24.8%、家庭教師7.5%、事務的職種6.8%であった。家庭教師が長期休暇の職種として増えているのは、地方の学生が帰省先で休暇中の児童・生徒の学習指導を依頼されるケースが多いためと考えられる。

(2) アルバイトの賃金

1時間当りの平均アルバイト賃金は、900～1000円が47.2%と最も多く、次いで1100円以上が27.7%、700～800円が24.1%であった(表5-5)。

1990年の調査では、700～800円未満が25.4%、800～900円未満20.4%、1000～1500円未満16.6%の順であった。

職種と賃金の関係を見ると、家庭教師や接待業は900～1000円・1100円以上で8～9割を占めているが、事務的職種・販売業は700～800円・900～1000円で8～9割を占めている(表5-6)。職種の特徴によりアルバイト賃金の差が生じている。

表 5 - 5. 1 時間当りの平均アルバイト賃金

	600円以内	700～800円	900～1000円	1100円以上	小計
1 年生	0(0.0)	18(38.3)	19(40.4)	10(21.3)	47(100.0)
2 年生	0(0.0)	18(30.0)	31(51.7)	11(18.3)	60(100.0)
3 年生	2(3.8)	6(11.3)	23(43.4)	22(41.5)	53(100.0)
4 年生	0(0.0)	5(14.3)	19(54.3)	11(31.4)	35(100.0)
総数	2(1.0)	47(24.1)	94(47.2)	54(27.7)	195(100.0)

表 5 - 6. 1 時間当りの平均アルバイト賃金

	600円以内	700～800円	900～1000円	1100円以上	小計
家庭教師	0(0.0)	1(7.1)	5(35.7)	8(57.1)	14(100.0)
事務的職種	1(5.9)	6(35.3)	8(47.1)	2(11.8)	17(100.0)
接待業	1(0.7)	25(17.2)	79(54.5)	40(27.6)	145(100.0)
販売業	0(0.0)	20(46.5)	18(41.9)	5(11.6)	43(100.0)
その他	1(4.0)	6(24.0)	9(36.0)	9(36.0)	25(100.0)
総数	3(1.2)	58(23.8)	119(48.8)	64(26.2)	244(100.0)

アルバイトの職種は複数回答。

第6章 健康状態について

1節 健康状態

日頃の健康状態について示したのは表6-1である。全体で「いつも好調」と回答した学生は19.7%、「1年に1～2回風邪をひく」と回答した学生は53.7%、「常に疲労感や不調を感じている」と回答した学生は19.2%、「1ヶ月に1～2回は病欠する」と回答した学生は2.0%、「治療中の病気がある」と回答した学生は1.5%、「その他」3.4%となっている。全体で70%強の学生は「いつも好調」と「1年に1～2回風邪をひく」となっている。この2項目について、1990年の調査の約50%と比べ、健康状態がよいと回答している学生が増えている。

また、常に疲労感や不調を感じている学生は平均で約20%いるが、5年前の調査結果(34.1%)と比較すると少なくなっている。

2節 退寮後の健康上の変化

寮生活から通学になったことによる健康上の変化を示したのが表6-2である。「変わらない」と回答した学生は全体で48.4%、「通学の方が健康になった」と回答した学生は16.4%、「疲労感や倦怠感が持続する」と回答した学生は31.1%、「その他」1.6%であった。

「疲労感や倦怠感が持続する」とする学生は全体で3分の1おり、寮を出てまもない2、3年生にその傾向が強くみられるようである。

「変わらない」とする学生(48.4%)は、1990年の調査結果(35.4%)と比較するとやや増えており、「通学の方が健康になった」とする学生(16.4%)は、1990年の調査結果(40.4%)と比較すると少なくなっている。また、「疲労感や倦怠感が持続する」とする学生(31.1%)は、1990年の調査結果(23.2%)と比較すると若干増えている。

表6-1. 健康状態について

	いつも好調	1年に1~2回 風邪をひく	常に疲労感や 不調を感じて いる	1ヶ月に 1~2回は 病欠する	治療中の 病気がある	その他	無回答	小計
1年生	14(26.4)	26(49.1)	10(18.9)	0(0.0)	1(1.9)	2(3.8)	0(0.0)	53(100.0)
2年生	16(26.7)	24(45.0)	14(23.3)	0(0.0)	1(1.7)	2(3.3)	0(0.0)	60(100.0)
3年生	6(10.9)	35(63.6)	7(12.7)	4(4.3)	0(0.0)	2(3.6)	1(1.8)	55(100.0)
4年生	4(11.4)	21(60.0)	8(22.9)	0(0.0)	1(2.9)	1(2.9)	0(0.0)	35(100.0)
総数	40(19.7)	109(53.7)	39(19.2)	4(2.0)	3(1.5)	7(3.4)	1(0.5)	203(100.0)

表6-2. 退寮後の健康上の変化

	変わらない	通学の方が 健康になった	疲労感や倦怠 感が持続する	その他	無回答	小計
1年生	3(100.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	3(100.0)
2年生	9(30.0)	5(16.7)	13(43.3)	1(3.3)	2(6.7)	30(100.0)
3年生	28(51.9)	6(11.1)	18(33.3)	1(1.9)	1(1.9)	54(100.0)
4年生	19(54.3)	9(25.7)	7(20.0)	0(0.0)	0(0.0)	35(100.0)
総数	59(48.4)	20(16.4)	38(31.1)	2(1.6)	3(2.5)	122(100.0)

3節 不安や悩みの解決方法

(1) 不安や悩みの内容

不安や悩みの内容を示したのが表6-3である。

「看護婦としての適性」について悩んでいると回答した学生は62.0%、「学業に関すること」50.5%、「健康について」20.8%、「人生観」38.5%、「将来の進路」42.7%、「友人との人間関係」43.8%、「異性問題」29.7%、「家庭の経済問題」14.1%、「その他」2.1%となっている。今回の結果は1990年の調査結果と同様な傾向がみられる。

(2) 不安や悩みの解決方法

不安や悩みの解決方法を示したのが表6-4である。

不安や悩みの解決に当たっては、「自分で」と回答した学生は全体で45.0%、「友人に相談」と回答した学生は37.7%、「家族に相談」と回答した学生は4.7%、「大学の教員に相談」と回答した学生は0.5%、「なりゆきにまかせた」と回答した学生は10.5%、「その他」1.6%となっている。

1990年の調査では「自分自身」26.5%、「友人に相談」15.0%、「なりゆき」12.5%というのが解決の3大方法の結果であった。「なりゆきまかせ」と回答した学生が若干減少しているが、これら3項目をあわせたものをみると今回は93.2%であり、1990年の63.9%に比べかなり多くなっている。「大学の教員に相談」とする学生は今回は1人だけであったが、1990年の調査結果では4.7%で各学年に2～5人はいた。

		～4時間	～5時間	～6時間	～7時間	7時間～	
1年生	平常	0	2	29	21	7	(人)
2年生	実習時間	3	3	20	8	2	(人)
	平常	0	5	24	25	5	
3年生	実習時間	9	17	14	8	0	(人)
	平常	0	10	24	15	3	
4年生	実習時間	13	19	17	3	4	(人)
	平常	0	4	16	20	10	

平成7年度定期健康診断問診票より

表 6 - 3. 不安や悩みの内容 (複数回答)

	看護婦としての適性	学業に関すること	健康について	人生観	将来の進路	友人との人間関係	異性関係	家庭の経済問題	その他
1 年生	29(55.8)	24(46.2)	9(17.2)	25(48.1)	15(28.8)	28(53.8)	14(26.9)	5(9.6)	3(5.8)
2 年生	37(67.3)	34(61.8)	11(20.2)	20(36.4)	23(41.8)	20(36.4)	14(25.5)	12(21.8)	1(1.8)
3 年生	33(63.5)	19(36.5)	11(21.2)	13(25.0)	24(46.2)	23(44.2)	16(30.8)	6(11.5)	0(0.0)
4 年生	20(60.6)	20(60.6)	9(27.3)	16(48.5)	20(60.6)	13(39.4)	13(39.4)	4(12.1)	0(0.0)
総数	119(62.0)	97(50.5)	40(20.8)	74(38.5)	82(42.7)	84(43.8)	57(29.7)	27(14.1)	4(2.1)

この表は複数回答による項目のなかで、「はい」と回答した人についてのみ集計し、記載している。

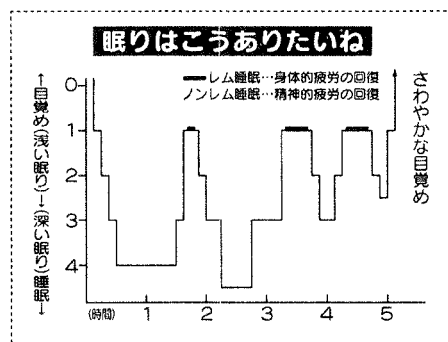
表 6 - 4. 不安や悩みの解決方法

	自分で	友人に相談	家族に相談	大学の教員に相談	なりゆきにまかせた	その他	小計
1 年生	27(54.0)	18(36.0)	1(2.0)	0(0.0)	4(8.0)	0(0.0)	50(100.0)
2 年生	25(44.6)	22(39.3)	3(5.4)	0(0.0)	6(10.7)	0(0.0)	56(100.0)
3 年生	19(36.5)	22(42.3)	3(5.8)	1(1.9)	6(11.5)	1(1.9)	52(100.0)
4 年生	15(45.5)	10(30.3)	2(6.1)	0(0.0)	4(12.1)	2(6.1)	33(100.0)
総数	86(45.0)	72(37.7)	9(4.7)	1(0.5)	20(10.5)	3(1.6)	191(100.0)

第7章 生活時間について

1 節 睡眠時間

睡眠時間を見ると、実業家や政治家は5～6時間という人が多く、ナポレオンは3時間であった、と言われる。睡眠は体の眠りである「レム睡眠」と脳の眠りである「ノンレム睡眠」という質の異なる2種類の眠りがセットになって一定のリズムが繰り返されて、眠りを感じている(右図参照)。学生の平均睡眠



時間を見ると、「6時間以下」の学生は、55.7%であった(表7-1)。学年別では、「3年生」(61.8%)や「1年生」(60.4%)に平均より睡眠時間の少ないことが明らかとなっている。平均睡眠時間「7時間」の学生は38.4%であった。学年別では、「2年生」や「4年生」(40.0%)に多くみとめられた。平均睡眠時間「8時間以上」の学生は、5.4%であった。学年別では「4年生」(14.3%)に多く認められた。

学年別に睡眠時間を考察すると、「2年生」と「4年生」は比較的、睡眠時間が短縮傾向にある。

2 節 通学時間

日本の平均的サラリーマンの通勤時間は90分と言われているが、本学の平均通学時間「30分」の学生は46.8%であった(表7-2)。学年別では、「2年生」(61.7%)や「1年生」(56.6%)は通学時間が短い。この理由の一つとして学生寮に在寮している学生が多いことである。平均通学時間「30～59分」(23.2%)を学年別で見ると、「3年生」(36.4%)や「4年生」(25.7%)に多く認められた。平均通学時間「90分」(18.7%)を学年別で見ると、「4年生」(22.9%)や「1年生」(20.0%)に多い。平均通学時間「120分」(11.37%)を見ると、学年別では「4年生」(17.1%)や「3年生」(14.5%)に多く認められた。

表7-1. 睡眠時間について

	6時間以下	7時間	8時間以上	無回答	小計
1年生	32(60.4)	19(35.8)	2(3.8)	0(0.0)	53(100.0)
2年生	31(51.7)	25(41.7)	3(5.0)	1(1.7)	60(100.0)
3年生	34(61.8)	20(36.4)	1(1.8)	0(0.0)	55(100.0)
4年生	16(45.7)	14(40.0)	5(14.3)	0(0.0)	35(100.0)
総数	113(55.7)	78(38.4)	11(5.4)	1(0.5)	203(100.0)

表7-2. 通学時間について

	30分以下	30~59分	90分	120分以上	小計
1年生	30(56.6)	6(11.3)	11(20.8)	6(11.3)	53(100.0)
2年生	37(61.7)	12(20.0)	8(13.3)	3(5.0)	60(100.0)
3年生	16(29.1)	20(36.4)	11(20.0)	8(14.5)	55(100.0)
4年生	12(34.3)	9(25.7)	8(22.9)	6(17.1)	35(100.0)
総数	95(46.8)	47(23.2)	38(18.7)	23(11.3)	203(100.0)

3 節 学習時間

大学の正規の学習時間以外の自己学習としての平均学習時間「1時間以下」(33.0%)を学年別に見ると、「3年生」(38.2%)や「1年生」(37.7%)に学習時間の少ない学生が多く認められていた(表7-3)。平均学習時間「1時間」(35.5%)を学年別に見ると、「3年生」(38.2%)、「2年生」(36.7%)、「1年生」(35.8%)に多く認められ、「4年生」(28.6%)に少ない。平均学習時間「2時間」(27.6%)を学年別に見ると、「4年生」(37.1%)や「2年生」(31.7%)に多い。平均学習時間「3時間」(2.0%)を学年別に見ると、「4年生」(8.6%)に比較的多く認められた。

学習時間を考察すると、学年が高くなるに比例して、学習時間の増加傾向が認められる。又、1990年の調査結果と比較すると、「1～2時間」の学習時間では、最近の学生の割合が多く、「3時間」の学習時間では逆に、減少している。

4 節 自由時間とサークル活動時間

(1) 自由時間

学生の平均自由時間は「2時間」(59.1%)と「3時間」(24.1%)が多い(表7-4)。「2時間」の自由時間を学年別に見ると、「4年生」(62.9%)と「2年生」及び「3年生」(60.0%)にやや多く認められる。「3時間」の時間について学年別に見ると、「1年生」(28.3%)、「4年生」(25.7%)、「2年生」(25.0%)に比較的多く認められ、「3年生」(18.2%)は少ない。

学生の自由時間を考察すると、4年生に自由時間が多い。また、1990年の調査結果と比較すると、全体で5時間以上の自由時間を持つ学生が約半数以上あり、今回の学生の自由時間が大幅に減少している。

表7-3. 学習時間について

	1時間以下	1時間	2時間	3時間	無回答	小計
1年生	20(37.7)	19(35.8)	13(24.5)	1(1.9)	0(0.0)	53(100.0)
2年生	17(28.3)	22(36.7)	19(31.7)	0(0.0)	2(3.3)	60(100.0)
3年生	21(38.2)	21(38.2)	11(20.0)	0(0.0)	2(3.6)	55(100.0)
4年生	9(25.7)	10(28.6)	13(37.1)	3(8.6)	0(0.0)	35(100.0)
総数	67(33.0)	72(35.5)	56(27.6)	4(2.0)	4(2.0)	203(100.0)

表7-4. 自由時間について

	1時間以下	1時間	2時間	3時間	4時間以上	無回答	小計
1年生	5(9.4)	4(7.5)	29(54.7)	15(28.3)	0(0.0)	0(0.0)	53(100.0)
2年生	2(3.3)	5(8.3)	36(60.0)	15(25.0)	0(0.0)	2(3.3)	60(100.0)
3年生	1(1.8)	10(18.2)	33(60.0)	10(18.2)	0(0.0)	1(1.8)	55(100.0)
4年生	3(8.6)	0(0.0)	22(62.9)	9(25.7)	1(2.9)	0(0.0)	35(100.0)
総数	11(5.4)	19(9.4)	120(59.1)	49(24.1)	1(0.5)	3(1.5)	203(100.0)

(2) サークル活動時間

最近の傾向として、大学の調査等を見ると、学生のサークル活動時間が減少していることが指摘されている。本学学生の平均サークル時間を見ると、「1時間以下」(51.7%)と「2時間」(31.5%)が多い(表7-5)。

平均サークル時間「1時間以下」を学年別に見ると、「4年生」(70.0%)や「3年生」(61.7%)に多い。平均サークル時間「2時間」を学年別に見ると「1年生」(40.0%)や「2年生」(39.2%)に多い。

学生のサークル時間を学年別に考察すると、「1～2年生」は2時間が多く、「3～4年生」になると、少なくなる傾向がある。1990年の調査結果を見ると、「1時間以下」の平均サークル時間は56.0%であった。この「1時間以下のクラブ活動時間」は「1年生」(46.3%)より「3年生」(58.7%)や「4年生」(69.2%)に多く認められており、今回の調査結果と同じ傾向を示していた。

表 7-5. サークル活動時間について

	1 時間以下	1 時間	2 時間	3 時間	無回答	小計
1 年生	23 (46.0)	3 (6.0)	20 (40.0)	2 (4.0)	2 (4.0)	50 (100.0)
2 年生	19 (37.3)	4 (7.8)	20 (39.2)	5 (9.8)	3 (5.9)	51 (100.0)
3 年生	29 (61.7)	4 (8.5)	11 (23.4)	3 (6.4)	0 (0.0)	47 (100.0)
4 年生	21 (70.0)	2 (6.7)	5 (16.7)	2 (6.7)	0 (0.0)	30 (100.0)
総数	62 (51.7)	13 (7.3)	56 (31.5)	12 (6.7)	5 (2.8)	178 (100.0)

第8章 課外活動について

1節 加入している学内・外のクラブ及び同好会

最近、大学生の課外活動の減少傾向が指摘されているが、1995年4月現在の本学のクラブ・同好会等の活動状況は体育会系ではテニス部38名、水泳部44名、バスケットボール部17名、バレーボール部31名、硬式庭球部12名となっている(表8-1)。文化系では、茶道部10名、こぶしの会36名、コーラス部22名、料理部18名、華道部11名となっている。

表8-1. クラブ等の活動状況(1995年4月現在)

団 体 名	人 数	団 体 名	人 数
【体育部】		【文化部】	
テニス部	38	茶道部	10
水泳部	44	こぶしの会	36
バスケットボール部	17	コーラス部	22
バレーボール部	31	料理部	18
硬式庭球部	12	華道部	11

(1997年日本赤十字看護大学学生便覧より引用)

今回の調査結果から学内の課外活動状況をまとめると、テニス部や硬式庭球部等を除いて、学内の課外活動はやや減少傾向にある(表8-2)。

一方、学生の学外における課外活動の状況を見ると、表8-3で示すように、1年生は「大学をおもしろくする会」や「全人的医療を考える会」等を始めとする多彩な活動に関心を示し、他大学等の学生とクラブ、同好会と活発に交流をしていることが分かる。2年生では、「歩好会」「スキーサークル」等に参加し、他大学との交流を活発に行っている。3年生は「山岳会」や「アメリカンフットボール」等、他大学の学生と交流している。4年生になると、学外活動が減少している。主な交流大学は早稲田大学、上智大学、東京大学、東京理科大学、東京工業大学の学生となっている。

表 8 - 2. 学内の課外活動

単位：人数

課外活動名	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	小計
【体育系】					
バスケットボール部	4	5	3	4	16
テニス部	8	13	16	10	47
硬式庭球部	3	4	4	3	14
バレーボール部	10	7	7	3	27
水泳部	8	5	2	4	19
スキー同好会	—	—	—	1	1
ホッケー同好会	—	—	—	1	1
ボランティアサークル	—	—	—	1	1
【文化系】					
こぶしの会	8	12	10	7	37
料理部	2	12	3	3	20
コーラス部	2	5	8	4	19
華道部	—	2	2	1	5
茶道部	2	3	4	—	9
聖書を読む会	8	—	2	10	20
医ゼミ	—	1	—	—	1

表 8 - 3. 学外の課外活動

1 年生	<ul style="list-style-type: none"> ・ オールラウンドサークル・ボーイスカウト世田谷ローバー会・卓球部 ・ 大学をおもしろくする会・全人的医療を考える会・江戸を歩く会・子供会 ・ 早大「ラグビーサークル」・吹奏楽団・上智大「中南米研究会」・コーラス ・ ラテンバンド・早大「U. B. C.」・ラグビーサークル(2)」・テニス ・ 上智大「国際交流A」・上智大「英文研究会」・東大「器械体操部」 ・ 赤十字学生奉仕団 ・ 東京理科大「歩好会」・オールラウンド系サークル(4)・バレーボール部 ・ テニスサークル(2)・ボランティアサークル・アウトドア系サークル(3) ・ アイスター学生部・東大「山岳旅の会」・アメリカンフットボールサークル ・ 早大「吹奏楽部」・吹奏楽部・早大「愛歩同好会」・東工大「管弦楽団」 ・ インタークルーズ・フランティック・手話サークル・東工大「向岳合唱団」 ・ トライアスロンサークル
2 年生	<ul style="list-style-type: none"> ・ 軟式女子野球部・アウトドア系サークル(2)・剣道部・管弦楽団(3) ・ 日赤青少年ボランティア・早大「ロードセリリング部」(2)・歩好会(5) ・ サッカー部マネージャー・スキー部・キャンプサークル・山岳旅の会(2) ・ スキーサークル(2)・東工大「管弦楽団」・東工大「向岳合唱団」・英会話 ・ 早大「女子ラグビー部」・バドミントン部(2)・バスケットボール部 ・ ラグビー部マネージャー・東京理科大「管弦楽団」・バレーボール部
3 年生	<ul style="list-style-type: none"> ・ バレーボール部・山岳部(2)・東大「スポーツ愛好会」・吹奏楽部 ・ アメリカンフットボールサークル・ラグビーサークルマネージャー ・ J M J ミュージカル合唱団・日本フィルハーモニー協会合唱団・器楽部 ・ 明治大学「テニス部」・テニスサークル(2)・ボランティア団体・スキー ・ ボランティアサークル(2)・野球部のマネージャー(2)・音楽サークル ・ アウトドア・早大「アイスホッケー部マネージャー」・早大テニスサークル系サークル ・ 明学「テニスサークル」・早大「競馬の会」・なし(2)
4 年生	<ul style="list-style-type: none"> ・ スキー・ラグビー部マネージャー(2)・テニスサークル(3)・A. M. S. ・ バレーボール部・東京理科大「歩好会」・東工大「合唱団」・東大「吹奏楽部」 ・ テニス部(3)・サークルのマネージャー・ガールスカウト・こぶしの会 ・ バスケットボールサークル・オーケストラ・なし

2 節 クラブ等の参加目的など

(1) 課外活動への参加

学生の課外活動の参加理由(複数回答)を見ると、総数では「興味、関心があるから」が74.6%で最も多く、「楽しむため」は77.3%、「友人を得るため」は58.6%であった(表8-4)。これを学年別に見ると、「興味、関心があるから」課外活動に参加したのは、3年生(88.0%)と2年生(76.8%)に多く、「楽しむため」に参加した学年は「1年生」(83.7%)と「3年生」(78.0%)に多く認められた。「友人を得るため」に課外活動に参加した学年は「2年生」(73.2%)に多く認められた。「知識、教養、技術の獲得」は「3年生」(36.0%)に多く、「人格形成」では「1年生」(25.5%)に多く認められた。その他の理由をまとめてみると、「1年生」は「く体力をつけるため」、「2年生」は「く男性と交流するため」、「3年生」は「くストレスの発散」、「4年生」は「く暇だから」と言う理由が見られた。

課外活動の参加理由を考察すると、「1年生」は「楽しむため」や「人格形成」を目的として課外活動に参加している。3年生は「知識、教養、技術の獲得」を目的に参加している。また、この結果を1990年の調査結果と比較すると、今回の学生の積極的参加理由が認められている。

(2) 課外活動における中途退会の理由

課外活動に参加していた学生が中途退会した理由を見ると、総数では「課外活動に興味なくなる」学生(29.1%)が多い(表8-5)。「課外活動のありかたに疑問」を感じる学生(21.8%)が次いで多くなる。学年別に見ると、「課外活動に興味なくなる」は「4年生」(37.5%)と「2年生」(35.7%)に多く、「課外活動のありかたに疑問」を持つのは「1年生」(33.3%)と「3年生」(25.0%)に多い。「学業と両立しない」理由を挙げるのは、「4年生」(37.5%)に多く、「通学時間が長いから」とする理由は「1年生」(22.2%)に多い。その他の理由を見ると、「1年生」は「つまらない」、「2年生」は「孤立し、打ち解けられない等」の理由が挙げられている。「3年生」は「学校との時間が合わない、人間関係、他にしたいことがある等」を挙げている。「4年生」は「お金の問題、練習場所等」を挙げている。

課外活動の中途退会理由を考察すると、「1年生」は「課外活動のあり方や通学時間の問題」を挙げ、4年生は「学業との両立」を退会の主な理由として挙げている。また、1990年の調査結果と比較すると、中途退会の理由が明確になっており、クラブ活動のありかたを改善する必要性をこの調査結果から痛感している。

表 8-4. 課外活動に参加した目的（複数回答）

	友人を得る ため	知識・教養・技術 の取得	人格形成	興味・関心 があるから	楽しむため	その他
1年生	21(48.8)	13(30.2)	11(25.6)	30(69.8)	36(83.7)	1(2.3)
2年生	41(73.2)	17(30.4)	7(12.5)	43(76.8)	42(75.0)	2(3.6)
3年生	27(54.0)	18(36.0)	5(10.0)	44(88.0)	39(78.0)	0(0.0)
4年生	17(53.1)	8(25.0)	5(15.6)	18(56.3)	23(71.9)	1(3.1)
総数	106(58.6)	56(30.9)	28(15.5)	135(74.6)	140(77.3)	4(2.2)

*この表は複数回答による項目のなかで、「はい」と回答した人についてのみ集計し、記載した。

表 8-5. 以前課外活動に参加した学生の辞めた理由

	課外活動に 興味がなくな る	課外活動 のあり方に 疑問	学業と両立 しない	アルバイトが あるから	通学時間が 長いから	その他	無回答	小計
1年生	2(22.2)	3(33.3)	0(0.0)	1(11.1)	2(22.2)	0(0.0)	1(11.1)	9(100.0)
2年生	5(35.7)	2(14.3)	1(7.1)	2(14.3)	2(14.3)	2(14.3)	0(0.0)	14(100.0)
3年生	3(18.8)	4(25.0)	3(18.8)	1(6.3)	2(12.5)	2(12.5)	1(6.3)	16(100.0)
4年生	6(37.5)	3(18.8)	6(37.5)	0(0.0)	1(6.3)	0(0.0)	0(0.0)	16(100.0)
総数	16(29.1)	12(21.8)	10(18.2)	4(7.3)	7(12.7)	4(7.3)	2(3.6)	55(100.0)

(3) 課外活動の不参加理由

課外活動の不参加理由を見ると、総数17名と少なく、中でも「興味ある課外活動がない」(23.5%)とする学生が比較的多い(表8-6)。1990年の調査結果を見ると、最初からクラブ・サークル活動に参加しない学生は32名であった。その中で、「入りたいと思うクラブがない」が11名、「課外活動に興味がない」が7名、「時間的に困難」が4名、「学業と両立しない」が2名となっている。「その他の理由」が8名であった(図8-1)。

表 8－6. 最初から課外活動に加入しない学生の理由

	課外活動に興味がない	興味ある課外活動がない	学業と両立しない	アルバイトがあるから	通学時間が長いから	無回答	小計
1年生	2(20.0)	2(20.0)	1(10.0)	0(0.0)	0(0.0)	5(50.0)	10(100.0)
2年生	0(0.0)	1(100.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	1(100.0)
3年生	1(33.3)	1(33.3)	0(0.0)	1(33.3)	0(0.0)	0(0.0)	3(100.0)
4年生	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	1(33.3)	2(66.7)	3(100.0)
総数	3(17.6)	4(23.5)	1(5.9)	1(5.9)	1(5.9)	7(41.2)	17(100.0)

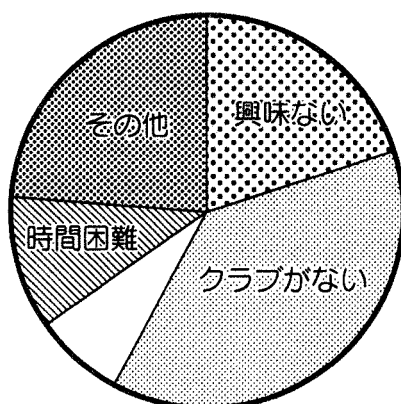


図 8－1. 最初から参加していない理由（1990年の調査）

3節 夏期休暇中の主な行動

学生の本年度における夏期休暇中の主な行動(複数回答)を総数から見ると、国内旅行(36.6%)、海外旅行(25.2%)、課外活動(23.3%)、正課のための勉強(10.9%)、自動車等の免許の取得(9.4%)となっている(表8-7)。夏期休暇中の主な行動を学年別に見ると、国内旅行は、「1年生」(44.2%)や「2年生」(41.7%)に多く認められる。海外旅行は逆に、「3年生」(45.5%)や「4年生」(31.4%)に多い。課外活動は「1年生」(32.7%)や「2年生」(28.3%)に多く認められ、「4年生」(5.7%)に少ない。自動車等の免許取得は「2年生」(15.0%)や「1年生」(13.5%)に比較的多く認められる。その他の行動を具体的に挙げてみると、「1年生」は、スキューバダイビング、アルバイト、医学生ゼミナール参加、ボランティア活動等を挙げている。「2年生」は、サークル活動、ホームステイ、アルバイト、自宅で休養等を挙げている。「3年生」は、比較看護学による米国旅行、アルバイト、自宅休養等を挙げている。「4年生」は、就職活動、アルバイト等を挙げている。

夏期休暇の主な行動を考察すると、「1年生」や「2年生」は国内旅行や課外活動、自動車等の免許取得に時間を使用している学生が多く、「3年生」や「4年生」は海外旅行や正課のための学習行動が多い。1990年度の調査結果では海外旅行経験者は10.2%、国内旅行経験者19.3%であった。学生の旅行が活発になっていることが分かる(表8-8)。

表 8-7. 本年度の夏期休暇中の主な行動 (複数回答)

	国内旅行	海外旅行	自動車等の 免許取得	課外活動	正課のため の勉学	その他
1年生	23(44.2)	5(9.6)	7(13.5)	17(32.7)	1(1.9)	19(36.5)
2年生	25(41.7)	10(16.7)	9(15.0)	17(28.3)	1(1.7)	21(35.0)
3年生	17(30.9)	25(45.5)	3(5.5)	11(20.0)	5(9.1)	16(29.1)
4年生	9(25.7)	11(31.4)	0(0.0)	2(5.7)	15(42.9)	7(20.0)
総数	74(36.6)	51(25.2)	19(9.4)	47(23.3)	22(10.9)	63(31.2)

複数回答は「はい」のみ集計した。

表 8-8. 夏期休暇中の主な行動 (複数回答)

(%)

項目	H1年度	63年度	62年度	61年度	合計
アルバイト	22(21.6)	23(23.0)	22(19.5)	29(25.0)	96(22.3)
国内旅行	25(24.5)	25(25.0)	15(13.4)	18(15.5)	83(19.3)
海外旅行	4(3.9)	7(7.0)	15(13.4)	18(15.5)	44(10.2)
資格技術の習得	3(2.9)	2(2.0)	4(3.6)	4(3.4)	13(3.0)
車・二輪の免許	9(8.8)	6(6.0)	2(1.8)	3(2.6)	20(4.7)
勉学	17(16.7)	8(8.0)	29(25.9)	21(18.1)	75(17.4)
クラブ・サークル	14(13.7)	14(14.0)	7(6.3)	7(6.0)	42(9.8)
その他	8(7.8)	15(15.0)	18(16.1)	15(13.8)	57(13.3)

(1990年の調査)

4 節 課外教育と学生の希望

(1) 課外教育の経験の有無と受講講座

大学に入学して以来、技術や資格獲得のための学外活動の有無を見ると、総数では「ある」学生が38.9%となっている(表8-9)。学年別に見ると、4年生が48.6%、3年生が47.3%、2年生が45.0%、1年生が17.0%であった。

この「大学に入学して以来、技術や資格獲得のための学外通学経験のある学生」について受講した具体的な講座名を複数回答から分析すると、総数では「和洋裁」(97.5%)が最も多い(表8-10)。次に多いのが「語学」(35.8%)、「スポーツ」(21.0%)であった。これを学年別に見ると「和洋裁」は学年に関係なく多くの学生が参加している。「語学」は3年生(44.4%)や4年生(41.2%)に多く認められ、1年生(10.0%)に参加者が少ない。逆にスポーツ等は1年生(50.0%)に多く認められる。その他の講座名を具体的に挙げると、1年生が「自動車教習所」(2名)、陶芸、2年生が「自動車教習所」(7名)、文章、書道、救急法を挙げている。3年生は「自動車教習所(バイクの教習を含む)」(8名)、救急法、手話、パソコン、着付け、テニス等を挙げている。4年生は「自動車教習所」(5名)を挙げている。

「大学に入学して以来、技術や資格獲得」のために学外通学経験のある学生は総数から見ても、学年が上がるに比例して多く認められている。又、技術や資格獲得のため、学外講座では和洋裁を受講している学生が、1990年の調査結果よりも大幅に増加していた。

表 8-9. 大学入学以来の技術や資格獲得のための学外通学の有無

	ある	ない	無回答	小計
1年生	9(17.0)	39(73.6)	5(9.4)	53(100.0)
2年生	27(45.0)	33(55.0)	0(0.0)	60(100.0)
3年生	26(47.3)	25(45.5)	4(7.3)	55(100.0)
4年生	17(48.6)	16(45.7)	2(5.7)	35(100.0)
総数	79(38.9)	113(55.7)	11(5.4)	203(100.0)

表 8-10. 技術や資格獲得のための学外講座（複数回答）

	語学	スポーツ等	各種資格 の予備校	お茶・華	料理	和洋裁	音楽	その他
1年生	1(10.0)	5(50.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	9(90.0)	0(0.0)	3(30.0)
2年生	9(33.3)	4(14.8)	2(7.4)	0(0.0)	4(14.8)	27(100.0)	3(11.1)	10(37.0)
3年生	12(44.4)	3(11.1)	2(7.4)	0(0.0)	0(0.0)	26(96.3)	1(3.7)	13(48.1)
4年生	7(41.2)	5(29.4)	0(0.0)	5(29.4)	1(5.9)	17(100.0)	1(5.9)	4(23.5)
総数	29(35.8)	17(21.0)	4(4.9)	5(6.2)	5(6.2)	79(97.5)	5(6.2)	30(37.0)

回答項目の中で「はい」と回答した項目のみ集計した。

(2) 課外教育プログラムへの希望

学生の課外教育プログラムへの希望の中で多いのは「ハイキング、キャンプ等」(17.7%)、「映画鑑賞」(16.7%)、「海外研修会」(15.8%)であり、続いて「教養講座等の講演会」(10.8%)、「音楽鑑賞会」(8.9%)、「スポーツ講習会」(48.9%)の順であった(表8-11)。これを学年別に考察すると、「ハイキング、キャンプ等」は「3～4年生」に多く認められ、「映画鑑賞」は「2年生」(25.0%)や「4年生」(17.1%)に多く認められ、「海外研修会」では、1年生(22.6%)や4年生(20.0%)に希望者が多く認められた。1990年の調査結果と比較すると、海外研修のプログラム希望が減少し、ハイキング、キャンプ等のプログラム希望者が増加している。

表 8-11. 課外教育プログラムへの希望

	教養講座等 の講演会	映画鑑賞	音楽鑑賞	ハイキング キャンプ等	スポーツ 講習会	海外研修会	その他	無回答	小計
1 年生	4 (7.5)	7(13.2)	4 (7.5)	10(18.9)	3(5.7)	12(22.6)	2(3.8)	11(20.8)	53(100.0)
2 年生	4 (6.7)	15(25.0)	7(11.7)	7(11.7)	4(6.7)	7(11.7)	2(3.3)	14(23.3)	60(100.0)
3 年生	10(18.2)	6(10.9)	5(9.1)	12(21.8)	3(5.5)	6(10.9)	0(0.0)	13(23.6)	55(100.0)
4 年生	4(11.4)	6(17.1)	2(5.7)	7(20.0)	0(0.0)	7(20.0)	3(3.6)	6(17.1)	35(100.0)
総数	22(10.8)	34(16.7)	18(8.9)	36(17.7)	10(4.9)	32(15.8)	7(3.4)	44(21.7)	203(100.0)

第9章 卒業後の進路について

1 節 卒業後の進路

卒業後の進路では、病院等への就職を考えている学生が89.1%と最も多かった。7.9%の学生が「まだ進路を決めていない」と答えており、看護系大学院への進学を考えている学生は1.0%であった(表9-1)。

学年別に見ると、4年生では全員が病院等への就職と答えていたが、1・2・3年生では、まだ進路を決めていない学生が6.0~10.1%前後いた。これは、調査実施時において4年生は既に就職先が決定していたためであり、他の学年では、職種への適性も含め未知なことが多く卒業後の進路が具体化できないためと思われる。

また、進路を決めていない学生が1割前後に限られていることは、日本赤十字社関係の奨学生が各学年の9割近くを占めていることも反映していると思われる。

1990年の調査においても、病院等への就職87.4%、大学院への進学2.2%大学院以外への進学1.6%であり、まだ進路を決めていない学生は7.1%と今回の調査結果と同様の傾向であった。

2 節 就職先について

就職を考えている学生の就職希望先を見ると、日本赤十字系の病院が86.7%、国立・公立系病院2.8%、大学病院1.1%と病院に集中している(表9-2)。保健所を希望した学生はわずか1名であった。

日本赤十字系の病院に集中している理由は、1節において述べたように奨学金との関係と考えられる。

表9-1. 卒業後の進路

	病院等に就職	看護系大学院に進学	外国に留学	その他	まだ決めていない	小計
1年生	46(86.8)	0(0.0)	0(0.0)	1(1.9)	6(11.3)	53(100.0)
2年生	51(86.4)	2(3.4)	1(1.7)	1(1.7)	4(6.8)	59(100.0)
3年生	48(87.3)	0(0.0)	0(0.0)	1(1.8)	6(10.9)	55(100.0)
4年生	35(100.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	35(100.0)
総数	180(89.1)	2(1.0)	1(0.5)	3(1.5)	16(7.9)	202(100.0)

表9-2. 希望就職先

	日赤系の病院	国立・公立系の病院	大学病院	その他の病院	保健所	その他	小計
1年生	41(87.2)	1(2.1)	0(0.0)	2(4.3)	0(0.0)	3(6.4)	47(100.0)
2年生	49(96.0)	1(2.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	1(2.0)	51(100.0)
3年生	38(79.2)	1(2.1)	1(2.1)	0(0.0)	1(2.1)	7(14.6)	48(100.0)
4年生	29(82.9)	2(5.7)	1(2.9)	2(5.7)	0(0.0)	1(2.9)	35(100.0)
総数	157(86.7)	5(2.8)	2(1.1)	4(2.2)	1(0.5)	12(6.6)	181(100.0)

学生の生活実態調査

調査の目的

この調査は、本学の学生に関する生活実態を把握するために行うものである。調査によって得られた結果は、学生委員会において、本学の学生生活の向上を図るために基礎データとして使用するものであり、他の目的に使われることはありません。

調査にご協力をお願い致します。

日本赤十字看護大学
学生委員会

質問1. 現在、住んでいる住居の種類についてお聞きします。下記の項目を一つ選んで下さい。

1. 自宅
2. 下宿・アパート・マンション
3. 大学の学生寮
4. その他(具体的に)

質問2. [質問1で 2.下宿・アパート・マンション]に回答した学生にお聞きします。居住状態はどの様になっていますか？下記の<A～F>の項目毎に、一つ選んで下さい。

- | | | | |
|-------------|-----------|-----------|-----------|
| A. 間取りについて | 1. 4.5畳一間 | 2. 6畳一間 | 3. 2K～2DK |
| | 4. 3DK以上 | 5. その他 | |
| B. お風呂の有無 | 1. 個人用 | 2. 共同 | 3. 無い |
| C. トイレについて | 1. 個人用 | 2. 共同 | |
| D. 台所について | 1. 個人用 | 2. 共同 | 3. 無い |
| E. 同居人について | 1. いる | 2. いない | |
| F. 大学寮の入寮希望 | 1. 入りたい | 2. 入りたくない | |

質問3. [質問1で 3.大学の学生寮]に回答した学生及び[大学の学生寮を過去に経験した学生]にお聞きします。下記の<A～E>の項目毎に、選んで下さい。

- A. 寮生活の満足度 <回答は一つ>
1. 満足している
 2. 満足していない
 3. どちらともいえない
- B. 寮生活で良いと思われたこと <複数回答>
1. 友人との深い付き合い
 2. 親元からの独立
 3. 通学距離が短い
 4. 学習時間等が多い
 5. 経費が安く上がる
 6. その他
- C. 寮生活で困ったこと <複数回答>
1. 友人との関係
 2. 家の規則
 3. 室内設備
 4. 寮の設備
 5. 食事
 6. その他
- D. 食堂について <複数回答>
1. 値段が安い
 2. 種類が少ない
 3. 栄養のバランスが取れない
 4. その他
- E. 外泊について <回答は一つ>
1. 月に1～2回
 2. 毎週1回
 3. その他
 4. 外泊無し

質問4. あなたは、現在の住居について満足していますか？ 下記の項目を一つ選んで下さい。

1. 満足している 2. 満足していない 3. どちらともいえない

質問5. 現在、あなたの経済生活についてお聞きします。 A～Hの各項目にそれぞれ一つ選択して下さい。

A. 1ヶ月平均の総支出額（学校納付金を除く）

1. 3万円以下 2. 3～5万円 3. 6～7万円 4. 8～10万円
5. 11～12万円 6. 13～15万円 7. 16～20万円 8. 21万円以上

B. 1ヶ月平均の食費（自宅通学者は外食費）

1. 1万円以下 2. 1～2万円 3. 3万円 4. 4万円
5. 5万円以上

C. 1ヶ月平均の住居費（家賃、光熱水費を含む）＜自宅通学者、大学寮生は除く＞

1. 3万円以下 2. 3～5万円 3. 6～7万円 4. 8～10万円
5. 11万円以上

D. 1ヶ月平均の勉学費（学納金を除いた経費）

1. 4千円以下 2. 5千～1万円 3. 1万1千円～1万5千円
4. 1万6千円～2万円 5. 2万1千円以上

E. 1ヶ月平均の通学費（大学寮生は除く）

1. 0円 2. 1～4千円 3. 5～9千円 4. 1万円以上

F. 1ヶ月平均の家族からの援助額（自宅通学生は除く）

1. 2万円以下 2. 2～4万円 3. 5～6万円 4. 7～9万円
5. 10～12万円 6. 13万円以上

G. 現在受けている奨学金の種類

1. 日赤医療センター貸費 2. 日赤支部社費 3. 日本育英会
4. その他 5. 受けていない

H. ローン、クレジット等のトラブルに巻き込まれたことがありますか？

1. ある 2. ない

質問6. アルバイトについてお聞きします。下記のA～Gの項目について回答して下さい。

A. 入学以来、アルバイトをどのようにしていましたか？一つだけ回答して下さい。

1. 長期休暇のみ
2. 授業期間中臨時的に
3. 授業期間中恒常的に
4. 長期休暇中及び授業期間中
5. その他
6. アルバイトをしたことがない

B. アルバイトをしたことのある学生にお聞きします。アルバイトで得たお金の主な使用目的はなんですか？一つだけ回答して下さい。

1. 学費及び勉学費
2. 生活費
3. クラブ活動費
4. レジャー費
5. 高額商品の購入
6. その他（具体的に)

C. 授業期間中の1ヶ月の平均アルバイト日数はどのくらいですか？一つだけ回答して下さい。

1. 1～4日
2. 5～8日
3. 9～12日
4. 13日以上

D. 授業期間中の1日の平均アルバイト時間はどのくらいですか？一つだけ回答して下さい。

1. 1時間以内
2. 2～3時間
3. 4～5時間
4. 6時間以上

E. 授業期間中の1時間当りの平均アルバイト賃金はどのくらいですか？一つだけ回答して下さい。

1. 600円以下
2. 700～800円
3. 900～1000円
4. 1100円以上

F. 授業期間中の該当するアルバイトの職種をいくつでも挙げて下さい。

1. 家庭教師
2. 事務的職種
3. 接客業
4. 販売業
5. その他（具体的に)

G. 長期休暇中の該当するアルバイトの職種をいくつでも挙げて下さい。

1. 家庭教師
2. 事務的職種
3. 接客業
4. 販売業
5. その他（具体的に)

質問7. あなたは、現在、課外活動(学内外)に参加していますか？

1. 加入し、活動している
2. 加入のみ
3. 以前参加していたがやめた
4. 最初から加入していない

質問7-1. 「質問7の1～3に」回答した学生にお聞きします。課外活動について下記のA～Hの項目に回答して下さい。

- A. 加入している(していた)学外のクラブ・同好会名を具体的にいくつでも記入して下さい。
「例：バレーボール部」
- B. 加入している(していた)学外のクラブ・同好会名を具体的にいくつでも記入して下さい。
「例：バレーボール部」
- C. 課外活動に参加した目的はなんですか？ 該当する項目全てに○印をつけて下さい。課外活動に加入していない学生は記入しないで下さい。
 1. 友人を得るため
 2. 知識・教養・技術等を身につけるため
 3. 人格形成のため
 4. 興味・関心があったから
 5. 楽しむため
 6. その他()
- D. 最初から課外活動に参加しなかった学生にお聞きします。主な理由を一つ挙げて下さい。
 1. 課外活動に興味がない
 2. 興味ある課外活動がない
 3. 学業と両立しない
 4. アルバイトがあるから
 5. 通学時間が長いから
 6. その他()
- E. 以前参加していた課外活動をやめた学生にお聞きします。やめた主な理由を一つ挙げて下さい。
 1. 課外活動に興味なくなる
 2. 課外活動のあり方に疑問
 3. 学業と両立しない
 4. アルバイトがあるから
 5. 通学時間が長いから
 6. その他()
- F. 本年度の夏期休暇の主な行動について該当する項目に○印をつけて下さい。
 1. 国内旅行
 2. 海外旅行
 3. 自動車等の免許の取得
 4. 課外活動
 5. 正課のための勉学
 6. その他()

質問9. 健康状態についてお聞きします。下記の項目から一つ○印をつけて下さい。

1. いつも好調で、異常を感じない
2. 1年に1～2回風邪をひく程度
3. 常に疲労感や不調を感じている
4. 1ヶ月に1～2回は病気によって欠席することがある
5. 治療している病気がある(具体的に：)
6. その他()

質問10. 「寮生活を体験した通学生」にお聞きします。通学生となった半年期に健康上、変化がありましたか？ 下記の項目から一つ○印をつけて下さい。

1. 変わらない
2. 寮より通学の方が健康になった
3. 疲労や倦怠感が持続することが多い
4. 病気等による欠席が多くなる
5. その他()

質問11. 入学以来、悩みや不安はありましたか？ 該当するものに○印をつけて下さい。

1. 看護婦としての適性
2. 学業に関する能力問題
3. 健康について
4. 人生観について
5. 将来の進路
6. 友人との人間関係
7. 異性問題
8. 家庭の経済問題
9. その他()

質問12. 「質問11.」で、不安や悩みのある学生にお聞きします。どのような解決方法をとりますか？ 主なものを一つ○印をつけて下さい。

1. 自分で解決
2. 友人に相談
3. 家族に相談
4. 大学の教員に相談
5. 高校時代の先生に相談
6. なりゆきまかせ
7. その他()

質問13. 卒業後の進路についてお聞きします。○印は一つ。

1. 病院等に就職
2. 看護系大学院に進学
3. 外国に留学
4. その他()
5. まだ決めていない

質問14. 「質問13の病院に就職」する予定の学生にお聞きします。勤務先はどちらですか？
○印は一つ。

1. 日赤系の病院
2. 国立・公立系の病院
3. 大学病院
4. その他の病院
5. 保健所
6. 教育機関()
7. その他()

フェース・シート

F 1. あなたの学年

1. 1年
2. 2年
3. 3年
4. 4年

F 2. あなたの出身地(都道府県名)

1. 東京
2. 神奈川
3. 埼玉
4. 千葉
5. その他()

—調査のご協力ありがとうございました—

第2回 学生生活実態調査報告書作成メンバー

(◎, ○は正, 副編集委員長)

	森本	岩太郎	(教授)
	渡辺	晃一	(教授)
◎	島村	忠義	(助教授)
○	原	礼子	(助教授)
	横田	素美	(講師)
	安藤	広子	(講師)

第2回 学生生活実態調査報告書 1995年度

1997年1月30日 発行

編集 日本赤十字看護大学学生委員会

発行 日本赤十字看護大学

東京都渋谷区広尾4-1-3

電話 (03) 3409-0875

印刷 有限会社 大王社

東京都港区西麻布1-11-1

電話 (03) 3473-6493